

[課題演習概要]

豊かなスポーツライフの実現に向けた素地を養う体育科授業実践研究  
ースポーツとの多様な関わり方を実感できる手立てを用いてー

齋 藤 耕 太  
Kota SAITO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：豊かなスポーツライフ，スポーツとの多様な関わり方，質的研究

1 研究の目的

本研究は，豊かなスポーツライフの実現に向けた素地を養うことを目的とし，スポーツとの多様な関わり方を実感できる体育科授業の実践を行う。

2 研究の計画

M1 前期	研究構想及び先行研究の検討
M1 後期	附属校での実践・分析
M2 前期	先行研究の検討及びTA実習校での実践に向けた教材開発・授業構想
M2 後期	実習校での実践と授業分析・検討

3 研究の内容

(1) 先行研究

福ヶ迫（2018）は「中学校教員は専門家である一方で，専門的な内容（ボールの投げ方，打ち方など）を教えるだけでなく，生徒に合った教材をつくり，その中で思考・判断・表現する機会を与えることが使命といえる。」と述べている。さらに木谷ら（2018）は「豊かなスポーツライフを実現する保健体育授業の創造」をテーマとして授業実践を行っており，その授業実践バスケットボールのなかで，「運営係や記録係，メディア係，コーチ係など，『クラスワーク』の時間を利用して自分たちで授業を支え，創造していく単元の構想」を行っている。このことから，プレイヤーの人数，コート広さ，用具，プレー上の制限，さらにはする，みる，支える，知るに連携したスポーツとの多様な関わりができる手立てなどを用いた，既存のスポーツのルールに縛られない教材づくりの重要性が示唆される。しかしながら，先行研究にお

いては，生徒たちがどのように授業を支え，創造していったのか，深く掘り下げられていないことが課題として挙げられる。したがって，本研究は，豊かなスポーツライフを実現する上で重要な素地（意識）が芽生え，育ちつつある姿を，授業実践を通して，する・みる・支える視点から質的にとらえていくことを目指すものである。

(2) 実践授業

単元	器械運動（マット運動）		
本時	5 / 7	実践日	令和3年11月29日
学習者	A市立B中学校1年生29名		
主眼	写真撮影を通して，仲間の技や演技の良い点やスポーツとの新たな関わり方に気づくことができる。		

(3) 実践（授業分析）考察

a. 生徒A自身の演技の変化

22 : 09	緊張したような面持ちから，前転→生徒Fの補助付きの倒立前転→側転の演技を行う。最後は恥ずかしそうな様子で小さく最後のポーズを決める。
32 : 38	「いきます」と声を出し，手を上げ演技をスタートする。前転→生徒Fの補助付きの倒立前転→側転，それぞれの演技の間に間とメリハリをつけ，22 : 09段階よりも自信のある様子で演技を行っている。

22 : 09段階での生徒Aは緊張した様子で，周りの様子を伺いながらオドオドと演技を行っていた。32 : 38段階では，自らの演技を周りにアピールするように演技を行っていた。ここから，運動に対して消極的であった生徒Aが運動に意欲的に関わりだす姿を読み取ることができる。演技の技能において，目立った変化は見られないが，演技開始の合図や着地の安定感などに向上が見られる。

b. 生徒A補助での関わり

29 : 08	E	「倒立のところ撮って」
---------	---	-------------

29 : 10	A	「倒立3秒ぐらい立とう」
29 : 24		生徒 E の演技補助を行う。生徒 E が倒立をしたタイミングで「1・2・3」と3秒数え、回転に入るタイミングを伝える。
29 : 34		生徒 F が撮影した生徒 E の倒立の瞬間を撮った写真を見て、うれしそうな表情で拍手をする。

29 : 08 の生徒 E の倒立をした瞬間を撮ってほしいという要望に対して、29 : 10 で倒立を静止させることに対するアドバイスを行っている。またそのアドバイスを言葉で伝えるだけでなく、29 : 24 にあるように実際に数えるなどして、生徒 E が理解しやすいように工夫をしている。結果的に生徒 E は倒立前転において大切なポイントである倒立段階での静止をクリアした崩れの無い演技を行った。29 : 34 段階における生徒 A の様子から、支える視点からスポーツと関わり、生徒 E の演技の成功またその成功を支えた自分自身に喜びを感じ仲間そして自己を認める様子が読み取れた。

#### c. 生徒 A 補助技能の変化

37 : 49		「おっけいおっけい」と生徒 E の要請を受け、倒立前転の補助に入る。その際に「3秒くらいね」と倒立を静止するアドバイスをする。倒立の足をキャッチするタイミングが遅れたため、生徒 E の倒立前転は崩れたような演技となった。
38 : 42		生徒 E の倒立前転の補助を行う。早い段階で上がってきた足をキャッチし、きれいな静止からの回転ができた補助を行った。演技が終わり最後のポーズをすると同時に生徒 E とアイコンタクトをし、自信のある様子でうんと頷く。

37 : 49 にて、生徒 E の行う倒立前転の足の振り上げをキャッチするタイミングが遅れ、崩れていくような演技を招く補助となっていた。38 : 42 においては、生徒 E の行う倒立前転の足の振り上げを早い段階でキャッチし、きれいな静止からの回転ができる補助を行った。その後の生徒 E とのアイコンタクトまた頷く様子からも仲間を支えることに自信を持ち、その楽しさを感じる生徒 A の様子であると考ええる。

#### d. 生徒 A が考えるスポーツの良さがわかる場面

39 : 03		生徒 F が撮影した写真を見る。生徒 E が倒立の瞬間にまっすぐと静止している姿と自らがその補助をしている姿が写った写真を「これよくない？」と指差し、「これ良いと思うよ」と生徒 F に伝える。
---------	--	--

生徒 A は、スポーツをしている人と支えている人が同時に写った写真を良いと認めていた。支え合って他者と共に行うスポーツ活動に価値を見出している様子であると考ええる。

## 4 成果 (○) と課題 (●)

- これまで技能向上などを目的としてスポーツを「する」視点に偏りがちであった体育授業において、静止画に特化したカメラマン活動というスポーツとの多様な関わり方を実感できる手立てを用いた。その結果、スポーツと「みる」・「支える」視点で意欲的に関わる生徒の様子が見られた。仲間の技能向上に自らがカメラマンとして関わり、仲間と共に行うスポーツの楽しさを感じたことは、豊かなスポーツライフを実現していくための素地の芽生えではないかと考える。
- 本実践の課題は、生徒の運動量（「する」活動）について、カメラマン活動や補助活動、その他教師の指示の多さから、授業内においてその確保がなされなかった点である。体育授業における運動量の確保・安全性の確保、そして「スポーツとの多様な関わりを実感できる活動」のバランスをいかに取っていくかが授業また単元構想の重要な視点あることがわかった。
- 今回の授業実践では、グループ内での活動や意見交流、アドバイスなどが活発に行われていた。しかし、全体での交流が不十分であったため、授業の最終局面を自身との違いや仲間の良さ、さらには自らの良さを感じられるような内容へと改善をしていく必要がある。
- 本実践において、スポーツ（器械運動）に対する豊かな関わりの姿が多様に現れていたことは、一定の成果として挙げられる。今後、器械運動等の個人種目の他、団体競技等（バレーやバスケットなど）の単元においても、スポーツに対する多様な関わりが現れるような授業実践を行い、その姿が生涯にわたってスポーツに関わっていく素地として育成できたかについて検証を行っていく必要がある。

## 主な引用・参考文献

- 福ヶ迫善彦 2018 これからの中学校体育授業のイメージづくり：何をどのように学ばせるか？  
 木谷晋平 日下裕弘 2018 豊かなスポーツライフを実現する保健体育授業の創造～「教養」を高める「する、みる、支える、知る、伝える」かかわりのある授業実践～